

工具とジャッキ..... 103
 バックしたときは..... 106
 万一のときの処置..... 110
 こんな故障の応急処置は..... 112

工具とジャッキ

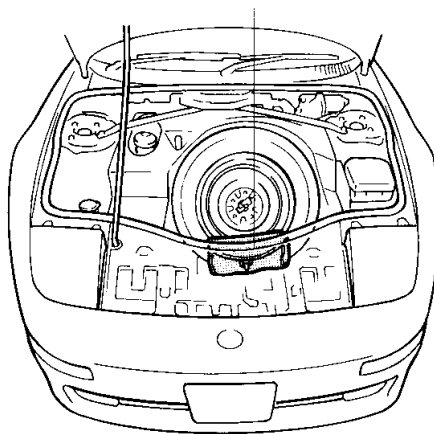
格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。



注意

1. 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
2. 車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
3. 車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

工具、ジャッキ

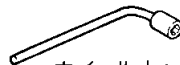


■工具とジャッキ

フロントトランク内に格納されています。



工具袋



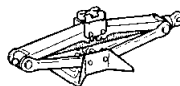
ホイールナットレンチ



輪止め



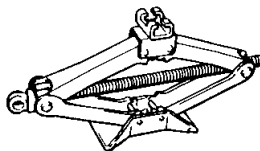
ジャッキハンドル



ジャッキ

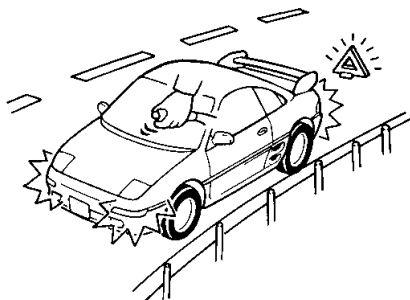
■ジャッキ

工具袋の中に格納されています。

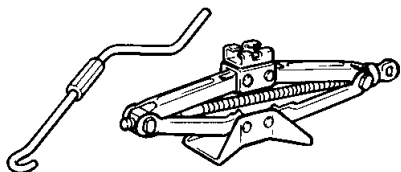


■ジャッキアップをする前に

1. 交通のじやまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。



3. パーキング（駐車）ブレーキをしっかりかけます。
4. マニュアル車は、エンジンを止め、チェンジレバーをRの位置にします。オートマチック車は、チェンジレバーをPの位置にし、エンジンを止めます。
5. ジャッキとジャッキハンドルを取り出します。



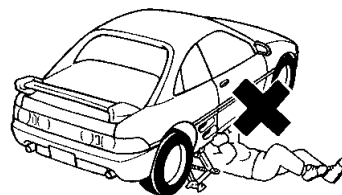
6. 輪止めを取り出します。

■ジャッキのかけ方



警告

1. ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。



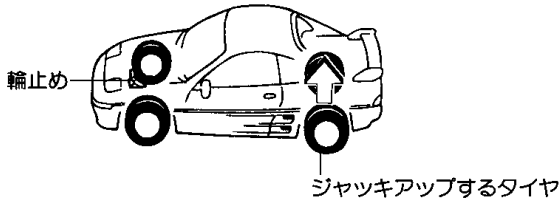
2. ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。



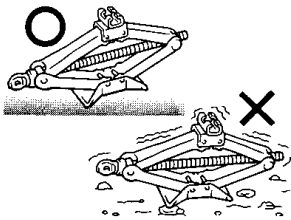
注意

1. ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。□次ページ参照
2. ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。ジャッキセット位置以外にかかっていると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れてけがをするおそれがあり危険です。
3. 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
4. ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物をはさまないでください。

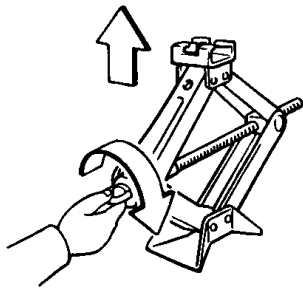
1. ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。



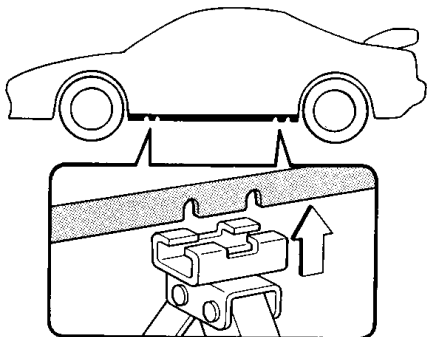
2. ジャッキを地面の平らな固くて安定できる場所にセットします。



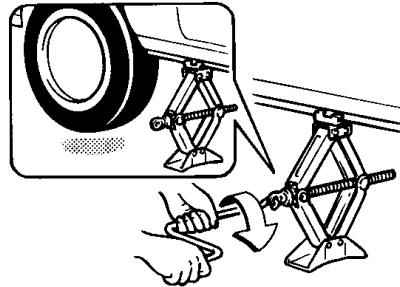
3. ジャッキの図の部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。



▶ ジャッキをセットする位置

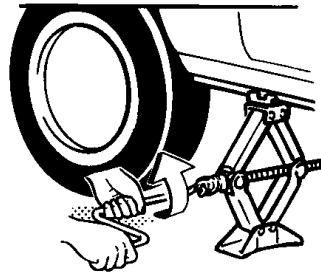


4. ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを右にまわして、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



■ ジャッキの下げ方

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。

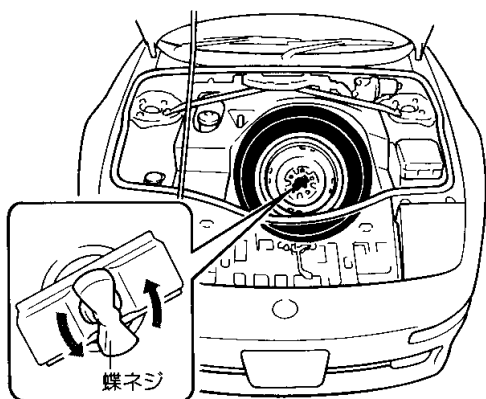


パンクしたときは

①スペアタイヤ

■格納場所

フロントトランクに格納されています。
蝶ネジを左に回して取り出します。



■応急用タイヤ

タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。

標準タイヤ



応急用タイヤ



※応急用タイヤは図のように標準タイヤと異なり専用タイヤです。



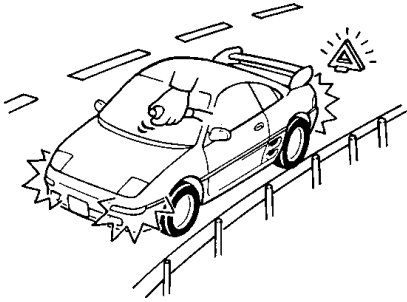
1. 応急用タイヤを装着しているときは100 km/h以上で走行しないでください。また、LSD装着車は、80km/h以下で走行し、急ハンドルや急加速、急激なエンジンブレーキは避けてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤはただちに修理して、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
2. 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様のお車専用です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様のお車に使用しないでください。走行に悪影響がでて思わぬ事故につながるおそれがあります。
3. 応急用タイヤを装着して突起物などをのりこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。
4. 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪に使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
5. 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。空気圧：4.2kg/cm²(走行前のタイヤが冷えているとき)
6. LSD装着車は後輪に応急用タイヤを装着しないでください。後輪がパンクしたときは応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪に装着してください。

パンクしたときは

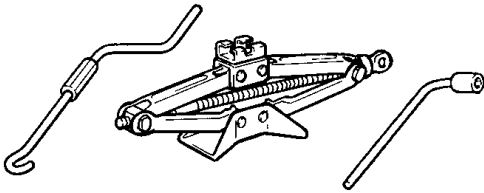
②タイヤ交換

■準備

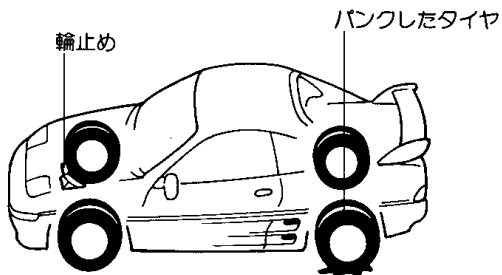
1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。



3. パーキング（駐車）ブレーキをしっかりかけます。
4. マニュアル車は、エンジンを止め、チェンジレバーを **R** の位置にします。オートマチック車は、チェンジレバーを **P** の位置にし、エンジンを止めます。
5. ジャッキやジャッキハンドル、ホイールナットレンチを取り出します。



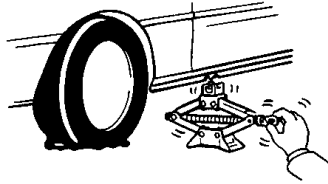
6. パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止め（搭載工具に含まれています）をします。



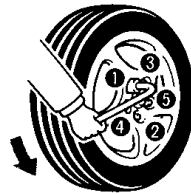
- 前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側、後輪がパンクしたときは前輪の前側に輪止めをしてください。
7. スペアタイヤを取り出します。⇨前ページの「パンクしたときは——①スペアタイヤ」を参照してください。

■ジャッキアップ

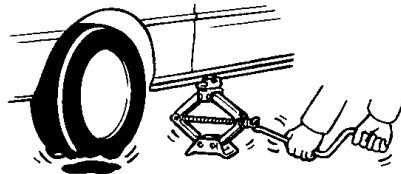
1. ジャッキをセットします。⇨104ページの「ジャッキのかけ方」を参照してください。



2. ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを左に回し、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

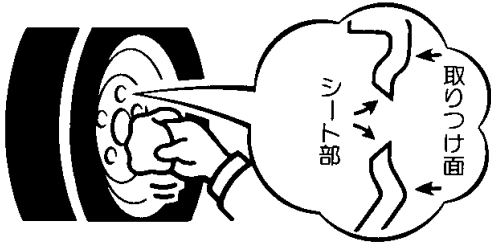


3. 車を、タイヤと地面が少し離れるまでジャッキアップします。



■タイヤ交換

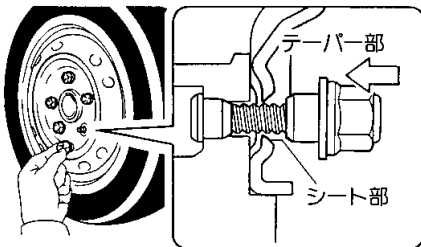
1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。ホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面のよごれをふきとってから取りつけてください。



注意 (Warning icon) タイヤを取りつけるときに、ホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどでよごれていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。

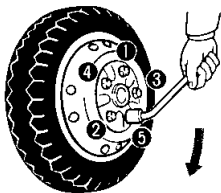
2. ナットのテーパ部分がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮締めします。

注意 (Warning icon) タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリスをぬらないでください。必要以上に締めつけられてボルトが破損するおそれがあります。



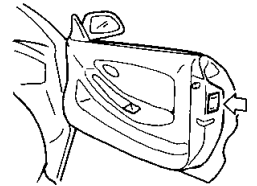
3. ジャッキを下げた後、図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締めつけます。

締め付けトルク：約10.5kgf・m



1. ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけしないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
2. ホイールナットレンチは、ホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。

4. 取りつけたタイヤの空気圧を確認します。(図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



5. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。



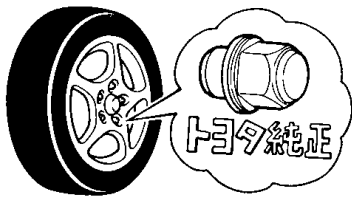
1. 傷、変形があるナット、ホイールなどは使用しないでください。
2. 1,000km走行したあとに再度ナットを締めつけ、ゆるみがないことを確認してください。
3. 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。
4. タイヤを新品と交換するときは、異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用しないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

■アルミホイールの取り扱い方

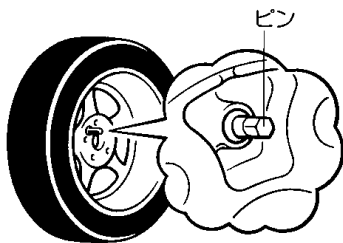
1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くときは意匠面を上にして置いてください。



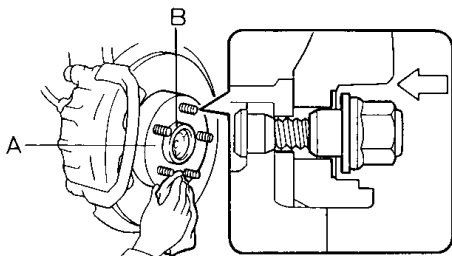
2. バランススウェイトおよびナットはトヨタ純正のアルミホイール専用部品をお使いください。



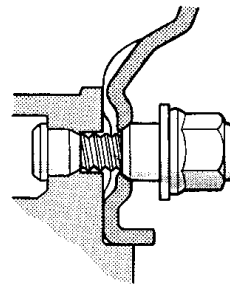
3. 傷、変形のあるアルミホイールは再使用しないでください。
4. 前輪と後輪のサイズが異なります。取り付け間違いを防止するため、後輪内側の組みつけ面に下図のようにピンが出ています。したがって後輪は前側に取付けできません。



5. アルミホイールを再び車両に取りつけるとき、図のA、BのよごれをきれいにふいてからBの部分を実際にはめ、ホイールボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイールナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。さらに、レンチを使用して手で十分締めつけます。



6. ホイールナットを締めすぎないように注意してください。
7. タイヤチェーンを装着すると、ホイールに傷をつけるおそれがあります。
8. 応急用タイヤまたはスチールホイールを取りつける場合、ホイールナットは下図のように取りつけてください。

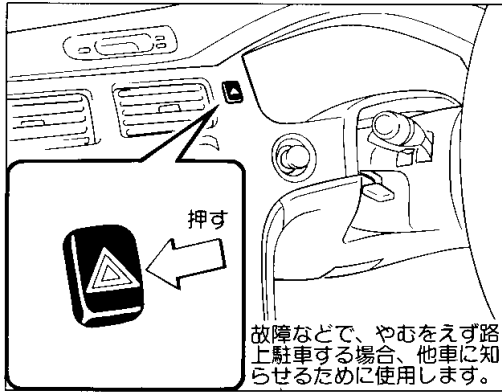


1. ナットはトヨタ純正アルミホイール専用部品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
2. ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

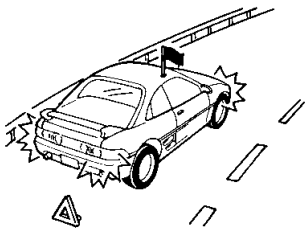
万一のときの処置

故障したら……

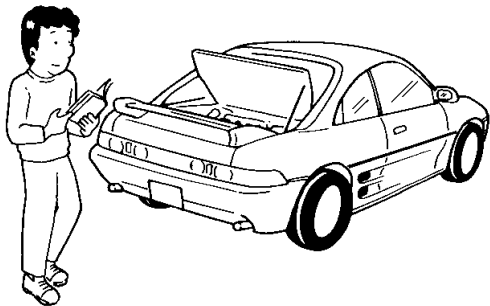
1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。



2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いてください。法律で義務づけられています。



▶困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のトヨタサービス網をご覧ください。



万一のときの処置

走行中、エンジンが停止したときは…

運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

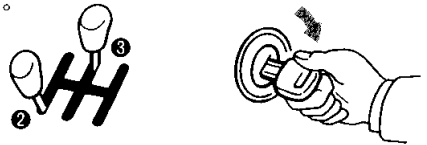
1. ブレーキブースター(ブレーキ倍力装置)が作用しなくなりますので、ブレーキペダルを強く踏んでください。
2. パワーステアリング(ハンドル操作力軽減装置)付き車はパワー装置が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

エンストして始動できなくなったときは…

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



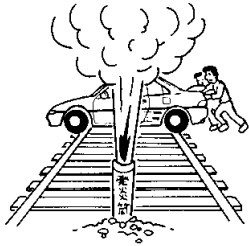
2. マニュアル(ギヤ式)トランスミッション車はチェンジレバーの位置をセカンドまたはサードにいれ、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。また、平田路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



- オートマチックトランスミッション車はエンジンスイッチで車を動かすことができません。

踏切内で動けなくなったときは…

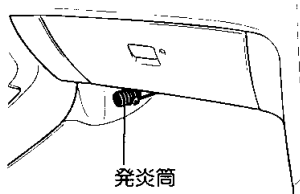
脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは発炎筒を使用してください。

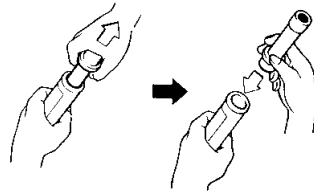
発炎筒

高速道路や踏切内などで、緊急を要するときに使われます。



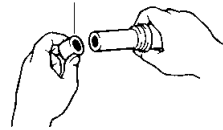
▶使い方

1. 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2. キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。

キャップ頭部



1. グローブボックス左下部に備えつけてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。
3. 発炎筒には、有効期間があります。

本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でトヨタ純正ハイフレヤー（発炎筒）をお求めください。



警告



- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒をガソリンなどの可燃物の近くで使用しないでください。引火するおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

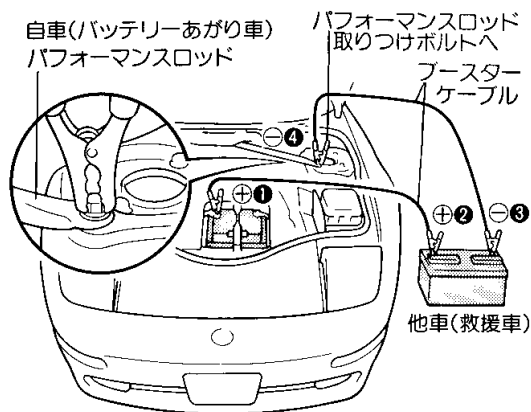
こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

ブースターケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

●救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1. スペアタイヤを取り出します。⇨106ページの「パンクしたときは——①スペアタイヤ」を参照してください。
2. ブースターケーブルを図の番号の順序に接続します。
⊕⊖を間違えないようご注意ください。



④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。



充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があります。目や皮ふに着くと重大な傷害を受けるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

5. 自車のエンジンが始動したら、取りつけたときと逆の順序でブースターケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリンスタンドやトヨタ販売店で完全充電してください。



●ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
●火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあります。



ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやVベルトに巻き込まれないように十分注意してください。万一、巻き込まれると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

絶対に押しがけによる始動はやめてください。



バッテリーがあがりやすい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートの処置は……

こんな状態が、オーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンにはいたり、エンジンの出力が低下する。
- エンジンフードから蒸気が立ちのぼる。



1. エンジンフードから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでエンジンフードを開けないでください。

エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。エンジンフードを開けるときは十分注意してください。

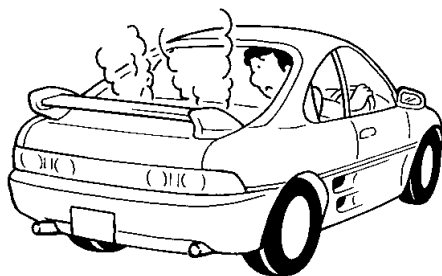
2. ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。



アドバイス

冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。

1. 車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、OFFにします。



2. まずエンジンフードから蒸気がでているかどうか確認します。

〈エンジンフードから蒸気がでていない場合〉

エンジンフードを開けてそのままエンジンをかけておきます。

〈エンジンフードから蒸気がでている場合〉

エンジンを止めます。

蒸気がでなくなったら、風通しをよくするためにエンジンフードを開けエンジンをかけます。

3. ラジエーター冷却用のファンが作動していることを確認してください。万一、ファンが作動していないときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。
4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部（放熱部）の著しいよごれ、ごみの付着の有無などを点検します。
5. 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
6. 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水漏れがないか日頃から点検をしてください。

点検方法は「メンテナンスノート」をご覧ください。

けん引してもらうときは……

けん引はできるだけトヨタ販売店またはJAFなどに依頼してください。

とくに次の場合は駆動系の故障も考えられますので、けん引する前にまずトヨタ販売店にご連絡ください。

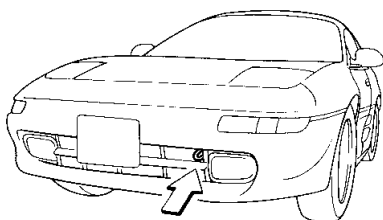
- エンジンがまわっているのに車が動かない。
- 異常な音がする。

■けん引フックの位置

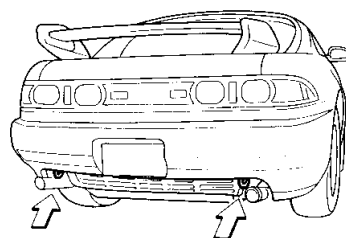
けん引フックは、一般路上で故障したときにけん引してもらうためのものです。

けん引フックに急激な力をかけないでください。

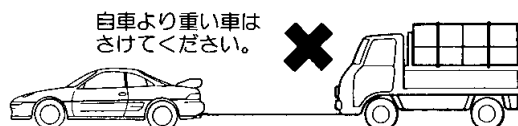
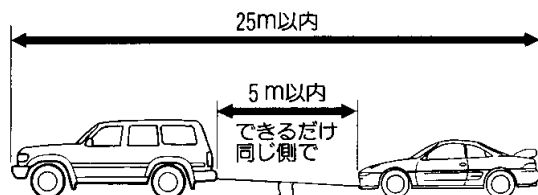
▶フロント側



▶リヤ側



けん引は、下図の方法を守ってください。



- 必ずけん引フックにロープをかけてけん引してください。
けん引ロープには0.3メートル平方(0.3m×0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。
- けん引される車は、次の事項を厳守してください。
 - ・チェンジレバーをNの位置にする。
 - ・エンジンスイッチをACCまたはONにする。
- けん引される車はけん引車の制動灯に注意して、常にロープをたるませないように気をつけてください。



急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり重大な傷害を生じるおそれがあり危険です。



1. エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCK位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチがLOCK位置だとキーが抜けるおそれがあります。
2. 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。
3. けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっているとブレーキの効が悪くなったり、パワーステアリング(ハンドル操作力軽減装置)付き車はハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。



1. ワイヤロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
2. オートマチックトランスミッション車の場合、けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

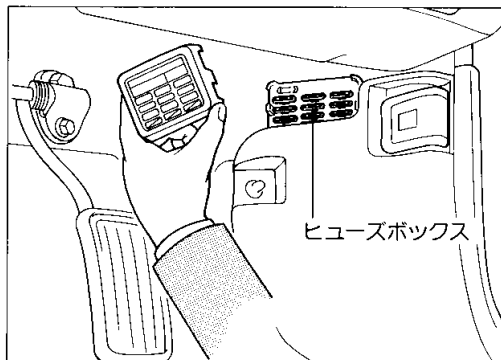
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が働かないときは、ヒューズが切れている場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておくとう便利です。

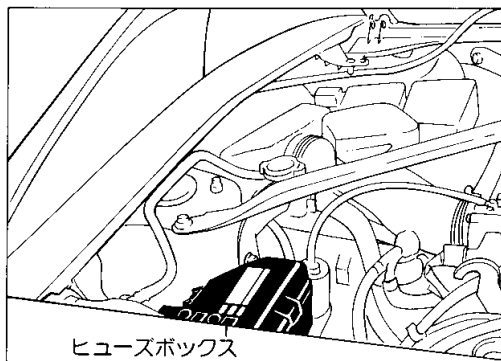
■ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは運転席足元、エンジンルーム内およびフロントトランク内にあります。

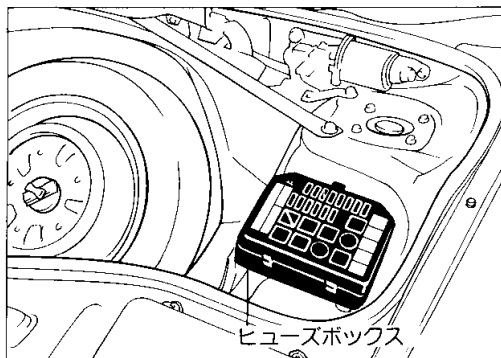
▶運転席足元ヒューズボックス



▶エンジンルーム内ヒューズボックス



▶フロントトランク内ヒューズボックス

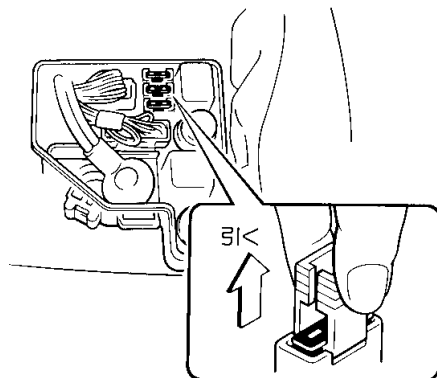


ヒューズの受け持っている装置は○次ページを参照してください。

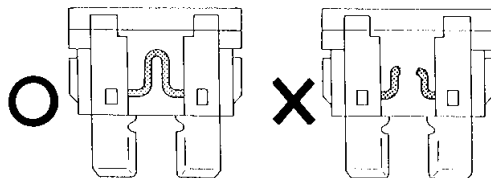
■ヒューズの交換

各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスカバーについています。)



3. ヒューズが下図の右側のようなであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。



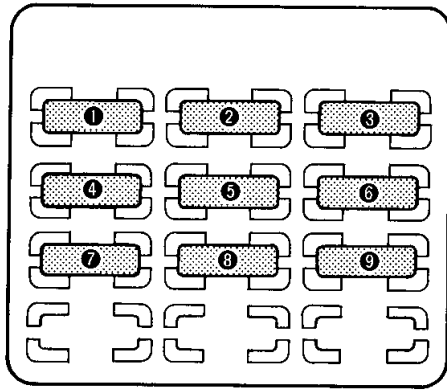
ヒューズのかわりに針金、銀紙などを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあります。



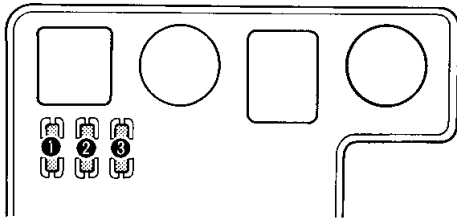
取り替えてもまたヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ヒューズの受け持つ装置

■運転席足元ヒューズボックス

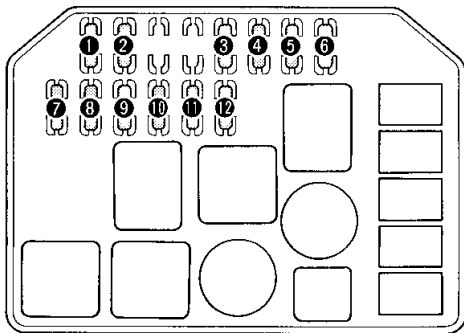


■エンジンルーム内ヒューズボックス



- 予備ヒューズはヒューズボックスのカバー裏側に取りつけられています。

■フロントトランク内ヒューズボックス



- ヒューズは車の仕様によりない場合があります。
- 各ヒューズの受け持つ装置は主なものについて記載しています。

<ヒューズ>

①	RAD CIG ラジオ ライタ	15 A	シガレットライター、オーディオ、電動格納式ドアミラー
②	GAUGE メータ	7.5 A	計器類、警告灯類、パワーステアリング
③	STOP ストップ ランプ	15 A	制動灯
④	PWR パワー	30 A	パワー(電動)ウインドゥ
⑤	TURN ターン	7.5 A	方向指示灯
⑥	DEFOG デフォガ	20 A	リヤウインドゥデフォガー(曇り取り)
⑦	DOOR ドアロック	20 A	電気式ドアロック
⑧	WIPER ワイパ	20 A	ワイパー & ウォッシャー
⑨	TAIL テールランプ	15 A	計器照明、ヒーター照明、尾灯、車輪灯、番号灯、スイッチ照明、シガレットライター照明、時計照明

<ヒューズ>

①	EFI	15 A	E F I コンピューター、フューエルポンプ
②	VENT ベントファン	20 A	ベントファンリレー&モータ
③	ECU-IG エレクトロニクス	7.5 A	オルタネーター、バックアップランプ、ABS

<ヒューズ>

①	HEAD (RH) ヘッドランプ(右)	15 A	ヘッドランプ(右)
②	HEAD (LH) ヘッドランプ(左)	15 A	ヘッドランプ(左)
③	FR FOG フォグランプ	15 A	フロントフォグランプ
④	RAD FAN ラジエーターファン	30 A	ラジエーターファンリレー&モータ
⑤	CDS FAX コンデンサファン	30 A	コンデンサーファンリレー&モータ
⑥	ALT SENCING オルタ センシング	7.5 A	オルタネーターS端子
⑦	DOME ルームランプ	15 A	マップランプ、半ドア警告灯、ワイヤレスドアロック、オーディオ
⑧	RTR リトラ	30 A	リトラクターリレー & モーター
⑨	HAZ-HORN ハザード・ホーン	15 A	警告器、非常点滅灯
⑩	AM2	7.5 A	充電警告灯、スタータ、イグニッションリレー
⑪	ECU-B エレクトロニクス	7.5 A	電動リモコンミラー、ステアリング連動フォグランプ
⑫	A.C エアコン	10 A	エアコン

ランプ類が点灯しないときは……

■フロント側電球



ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶついたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

▶ヘッドランプ

ハロゲン…………… 60/55W

▶フォグランプ

ハロゲン…………… 55W

▶車幅灯 …………… 5W

▶フロント方向指示灯(兼非常点滅灯) 21W(橙色)

▶サイド方向指示灯(兼非常点滅灯)…………… 5W

■リヤ側電球

▶方向指示灯(兼非常点滅灯)…………… 21W

▶制動灯…………… 21W

▶制動灯／尾灯…………… 21/5W

▶後退灯…………… 21W

▶番号灯…………… 5W

■室内電球

▶マップランプ…………… 8W

▶リヤトランク灯…………… 3.8W

▶ドアカーテシランプ…………… 3W



アドバイス

- 必ず同じW数の電球を使用してください。
- 電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面のくもりにつながるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



知識

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的にくもることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内部に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。